

2015年度量子ビームサイエンスフェスタ 学生奨励賞について

PF-UA 行事委員 植草秀裕 (東京工業大学)

2016年3月15日,16日に開催された量子ビームサイエンスフェスタでは6件の学生奨励賞が授与されました。この奨励賞は2011年の第28回PFシンポジウムから始まったもので、若手研究者の優秀な研究に対して授与するものです。今回も対象を「学生が筆頭著者のポスター発表で、PF、KENS、MSL、MLFおよび低速陽電子のいずれかを利用した研究成果」としました。奨励賞応募ポスター数は72件で、昨年度(85件)よりやや減少しました。

今回は審査のためのコアタイムは特に設けず、3名の審査員が自由に訪問する形式で発表者のプレゼンテーションと質疑応答による審査を行いました。発表者は、必ずしも同じ専門とは限らない審査員の先生方に全力で研究の説明をし、審査員はそこに鋭く質問するという真剣勝負が多くのポスターで繰り返されました。

審査項目は多岐にわたっており、研究内容の将来性、本人の貢献度、成果の達成度、研究方法の新規性や独創性、内容を明確に伝える分かりやすい発表か、質疑応答の内容などを審査しました。学生対象のポスター賞であるということ念頭に、発表方法と質疑応答を重視しました。つまり、成果も重要ではありますが、限られた時間内にいかに自分の研究をアピールできるかということが重要なポイントです。審査には最終的に47名の審査員が参加し、審査項目の合計点から上位6名を受賞者として発表タイトルと受賞者名を右に掲載しました。

今年度は時間を早めて受賞者決定を発表したことで、受

賞者全員を懇親会・授賞式に招待することができ、関係者一同嬉しく思いました。

授賞式は懇親会中に行われ、賞状とトロフィーが山田物構研所長、平井PF-UA会長、鳥養J-PARC/MLF利用者懇談会会長から授与されました。

審査員の先生方には限られた時間の中、多くの審査をお願いしたにも関わらず、非常に熱心に審査をいただき、感謝しております。また、ポスター発表全般、並びに奨励賞に関して事務局の方々にも大変お世話になりました。なお、本学生奨励賞はPF-UAとJ-PARC/MLF利用者懇談会の共催で、植草秀裕(PF-UA/東工大)、大石一城(MLF利用者懇談会/CROSS)、大井元貴(JAEA)、武市泰男(KEK-PF)が担当いたしました。

■学生奨励賞受賞者

◆北村 未歩(東京大学大学院工学系研究科)

「強相関酸化物ヘテロ構造を用いた界面強磁性の設計・制御」

◆萩原 健太(大阪大学大学院理学研究科)

「近藤絶縁体 YbB₁₂ (001) 表面の角度分解光電子分光」

◆菅 大暉(広島大学理学研究科)

「軟X線顕微鏡(STXM)による微生物—代謝生成物境界での鉄化学状態の調査」

◆山下 翔平(立命館大学大学院生命科学研究科)

「時間分解DXAFS法によるCO-NO反応におけるSiO₂担持Ni化学種の動的解析」

◆古池 晴信(東京理科大学大学院理工学研究科)

「有機分子を用いた金属の表面状態の制御」

◆領木 研之(大阪大学大学院理学研究科)

「環状アミローストリス(n-オクタデシルカルバメート)の溶液中での分子形態」



図1 奨励賞受賞者。後列左から：山田和芳 KEK物構研所長，鳥養 映子 MLF懇談会会長（山梨大教授），平井光博 PF-UA会長（群馬大教授），前列左から：山下翔平氏（立命館大院生命），古池晴信氏（東理大院理工），北村未歩氏（東大院工），萩原健太氏（阪大院理），領木研之氏（阪大院理），菅大暉氏（広大院理）。

平成27年度第三回PF-UA幹事会議事録

日時：平成28年3月15日 11:50-12:30

場所：エポカルつくば小会議室 303会場

出席者：平井光博（会長）、近藤寛（庶務）、田中信忠（会計）、植草秀裕（行事・書記）、清水敏之（行事）、山本勝宏（広報）、腰原伸也（戦略）、奥部真樹（推薦選挙）、上久保裕生（共同利用）、奥田浩司（教育）、足立伸一、村上洋一、木村千里、両宮健太（運営委員）、吉田鉄平

幹事会では次に行われる運営委員会に向けて、下記の報告・提案が紹介され議論を行った。

- ・2015年度量子ビームサイエンスフェスタ開催について報告があった。（行事幹事）
- ・平成27年度の会計（確定分）報告があった。（会計幹事）
- ・PF-UA退会届の運用、個人情報保護、既存UGの統廃合、

PF ニュース編集委員長指名に関する会則の改訂について報告があった。(庶務幹事)

- ・ 次年度量子ビームサイエンスフェスタについて報告があり、意見交換を行った。
- ・ PF 将来計画に向けた PF-UA の活動方針について提案があった。

平成 27 年度第二回 PF-UA 運営委員会議事録

日時：平成 28 年 3 月 15 日 12:30-13:00

場所：エポカルつくば小会議室 303 会場

出席者：平井光博（会長）、藤寛（庶務）、田中信忠（会計）、植草秀裕（行事・書記）、清水敏之（行事）、山本勝宏（広報）、腰原伸也（戦略）、奥部真樹（推薦選挙）、上久保裕生（共同利用）、奥田浩司（教育）、栗栖源嗣、鈴木昭夫、若林裕助、今井基晴、阿部善也、櫻井伸一、東善郎、木村千里、雨宮健太、村上洋一、足立伸一、百生敦、佐々木聡、沼子千弥、佐藤衛、三木邦夫、中山敦子（運営委員）、吉田鉄平

- ・ 2015 年度量子ビームサイエンスフェスタ開催について、特に PF-UA に関係する、プログラム集、学生奨励賞審査、企業展示について報告があった。(行事幹事)
- ・ 平成 27 年度の会計について当日確定分まで報告があった。当年度は黒字の見込みであり次年度に繰越する。(会計幹事)
- ・ PF-UA 退会届の運用、個人情報保護に関する会則改定の提案があった。総会で報告することとした。(庶務幹事)
- ・ 柔軟な運用を可能にするため PF-UA ホームページを外部サーバーに設置する提案があった。引き続き検討することとした。
- ・ 既存 UG の統廃合に関しては幹事会で迅速に扱うことができるように会則を追加する提案があり、総会で提案することとした。
- ・ PF ニュース編集委員長指名に関する会則の改訂が提案され、PF ニュースの編集長を PF から、副委員長を PF-UA から選ぶ事を総会で提案することとした。
- ・ 次年度量子ビームサイエンスフェスタの開催方法について報告があった。これまでに PF-UA からの意見集約があり、協議の結果、当初案（水戸県民センター 3/1-3）をキャンセルすることとなった。今後は施設の運転期間、関係期間の繁忙期も考慮し、関係 5 機関が集まって協議する。報告に基づき活発に意見交換を行った。
- ・ 次期計画に関する PF-UA の活動と提言が紹介された。今後の PF-UA の活動方針について、サイエンスに関する装置検討専門委員会（仮）および利用体制に関する利用検討専門委員会（仮）の設置、拡大 UG ワークショップの開催、アンケートの実施が提案された。

平成 27 年度 PF-UA 総会議事録

日時：平成 28 年 3 月 16 日 13:40-14:30

場所：つくば国際会議場エポカル 中ホール 300

- ・ 正会員の 1/50 以上の出席者数があり、会則 18 条の規定により本総会が成立することを確認した。
- ・ 会則 16 条により、議長の選出を行った。推薦により、水木氏が議長となった。
- ・ 平井会長から開会の挨拶があった。
- ・ スライド資料に基づき報告および審議が行われた。
- ・ 会計報告（平成 28 年 3 月まで、運営委員会承認済み）（会計幹事）
- ・ ユーザグループ関係の報告（庶務幹事）
- ・ ユーザグループの統廃合
「表面化学 UG」 + 「表面 ARPES UG」 ⇒ 「表面科学 UG」
- ・ ユーザグループ運営 BL（ステーション）
BL-3B（ARPES10）：表面科学 UG
AR-NE7（MAX-III）：高圧 UG
- ・ ユーザグループ代表者の変更
タンパク質結晶構造解析 UG
- ・ 会則改訂についての提案（庶務幹事）
- ・ 会員の退会、個人情報保護に関する改訂案が報告され、継続して検討することになった。
- ・ 既存ユーザグループの統廃合に関する会則を追加することが提案され、一部修正のうえ承認された。
- ・ PF ニュース編集委員長指名に関する会則の改訂が提案され、承認された。
- ・ 今後の量子ビームサイエンスフェスタの開催方法についての報告（平井会長）
今後の開催の仕方について主催団体代表者による協議が行われ、次年度は 3 月 13 日～ 15 日の期間に行われることになった。今後は主催団体相互の緊密な連携・協力の下に開催し、ホストは物構研と MLF が交互に担当することになった。
- ・ 次期計画に対する PF-UA の活動と貢献についての総合討論
平井会長より PF 将来計画検討委員会最終報告書の内容が紹介され、PF-UA の対応として、KEK 放射光装置検討専門委員会および利用検討専門委員会の立ち上げや次期計画に関する拡大 UG ワークショップの開催、アンケートの実施などの具体的な方策が提案された。これを受けて、会場から、PF-UA にとっての次期計画の位置づけやそれに対する PF-UA の関わり方などを中心に活発に意見が出され、PF-UA が次期計画を全面的に支持し、実現に向けてあらゆる努力を推し進めるべきであることを確認した。

ユーザーグループ一覧

平成 28 年 4 月 1 日現在

1	XAFS	田渕 雅夫	名古屋大学
2	タンパク質結晶構造解析	三木 邦夫	京都大学
3	小角散乱	櫻井 伸一	京都工繊大学
4	放射線生物	横谷 明德	(国) 量子科学技術研究開発機構
5	粉末回折	植草 秀裕	東京工業大学
6	高圧	高橋 博樹	日本大学
7	構造物性	有馬 孝尚	東京大学
8	表面科学	吉信 淳	東京大学
9	固体分光	藤森 淳	東京大学
10	原子分子科学	小田切 丈	上智大学
11	核共鳴散乱	小林 寿夫	兵庫県立大学
12	位相計測	百生 敦	東北大学
13	低速陽電子	長嶋 泰之	東京理科大学
14	医学利用	松下昌之助	筑波技術大学
15	X線発光	手塚 泰久	弘前大学
16	表面界面構造	高橋 敏男	東京大学
17	マイクロビームX線分析応用	高橋 嘉夫	東京大学
18	物質物理	奥部 真樹	東京工業大学
19	X線トポグラフィー	山口 博隆	産業技術総合研究所
20	動的構造	腰原 伸也	東京工業大学
21	鉱物・合成複雑単結晶	吉朝 朗	熊本大学
22	産業利用	米山 明男	(株) 日立製作所 中央研究所

PF-UA 運営委員名簿

任期：平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

朝倉清高	北海道大学触媒化学研究センター
東 善郎	上智大学理工学部
阿部善也	東京理科大学理学部
今井基晴	(独) 物質・材料研究機構
植草秀裕	東京工業大学大学院理工学研究科
奥部真樹	東京工業大学応用セラミックス研究所
木村千里	帝京大学医療技術学部
栗栖源嗣	大阪大学蛋白質研究所
齋藤智彦	東京理科大学理学部
櫻井伸一	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科
佐々木聡	東京工業大学応用セラミックス研究所
佐藤 衛	横浜市立大学大学院生命医科学研究科
志村考功	大阪大学大学院工学研究科
鈴木昭夫	東北大学 大学院理学研究科
田中信忠	昭和大学薬学部
田渕雅夫	名古屋大学大学院工学研究科
中山敦子	新潟大学研究推進機構超域学術院
沼子千弥	千葉大学理学部
増田卓也	(独) 物質・材料研究機構
清水敏之	東京大学大学院薬学系研究科
百生 敦	東北大学 多元物質科学研究所
八島正知	東京工業大学大学院理工学研究科
横谷明德	(国) 量子科学技術研究開発機構 量子ビーム 応用研究センター
米山明男	(株) 日立製作所 中央研究所
若林裕助	大阪大学大学院基礎工学研究科
足立伸一	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
雨宮健太	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
河田 洋	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
千田俊哉	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設
村上洋一	物質構造科学研究所・放射光科学研究施設

PF-UA 報告 (今年度の活動)

庶務幹事 近藤 寛 (慶応義塾大学)

平成 28 年度がスタートして第 1 期ビームタイムの運転が終わりました。ご承知のように、3 月の PF シンポジウムに先立ち、KEK 次期光源計画として蓄積リング型高輝度放射光 (KEK 放射光: 仮称) の暫定スペックが公開されたことを受けて、PF-UA はこの次期計画を全面的に支持し、実現に向けてあらゆる努力を推し進めるべきであることを総会で確認いたしました。具体的な対応として、戦略・将来計画検討小委員会より暫定的に提案されました KEK 放射光装置検討専門委員会および利用検討専門委員会の立ち上げや次期計画に関する拡大 UG ワークショップの開催などが議論され、具体化する方向へ進むことになりました。

4 月から年度が新しくなり、早速、戦略・将来計画小委員会で、より具体的な方針が検討されました。小委員会報告にありますように、「KEK 放射光計画推進に関する PF-UA 検討委員会」として KEK 放射光運営形態検討委員会、KEK 放射光ビームライン検討委員会、KEK 放射光ビーム利用検討委員会の三つの委員会を立ち上げて、施設運営・技術・サイエンスのそれぞれの角度から KEK 放射光がとるべき姿を議論することになります。特に技術とサイエンスの尖ったシーズがユーザーグループから出てくることが期待されていますので、皆様の活発なご議論をお願いする次第です。この議論は委員会できりまとめまして、PF が 10 月を目途に作成を進めている次期計画の Conceptual Design Report (CDR) に反映させることになります。委員会のメンバーは PF の中だけに閉じずに、オールジャパンのメンバーで議論が行われる予定ですが、さらにユーザーコミュニティ全体に議論を広げるために、9 月には拡大ユーザーグループミーティングとして「KEK 放射光ワークショップ」を開催します。ここでの議論も CDR に活かされることになります。今年度の後半は、次年度の Technical Design Report (TDR) の作成に向けて KEK 放射光計画の中身をより具体化するプロセスになります。アンケートもお願いすることになると思います。来年の 3 月の PF シンポジウムのときには、明確な青写真を伴った魅力的な放射光施設の姿が浮かび上がることを目指していきたいと思っています。

一方、PF-UA は施設とユーザーをつなぎ、両者を支援する組織として、幾つも改革を迫られている点があることも事実です。前回の総会で議論をしました会員の入退会制度の整備やユーザーグループへの登録促進を初め、解決すべき課題を抱えています。KEK 放射光はマシンの設計性能としては世界最高の位置を占めています。そこに魂を入れ、生き生きと活動する施設にするのは施設スタッフとユ

ーザーです。素晴らしい施設の立ち上げを可能にする強靱かつフレキシブルな組織になるよう、できることから一つ一つ進めていく所存ですので、皆様の御支援と御協力を心よりお願い申し上げます。

KEK 放射光ワークショップ開催のお知らせ

PF-UA 会長 / 群馬大学学術研究院 教授 平井光博
高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
放射光科学研究施設 施設長 村上洋一

来る 2016 年 9 月 11, 12 日の 2 日間にわたって、下記の通り、KEK 放射光に関するワークショップを、PF-UA と PF との共催で開催いたします。このワークショップは、PF が中心となって検討を進めている KEK 放射光計画の現状について、利用が想定されるユーザーとの情報共有を行うとともに、KEK 放射光の利用ケースについて分科会形式での議論を行い、利用ケースの全体像を取りまとめることを目的としています。

現在、PF-UA では、KEK 放射光について全日本体制で検討を進めるべく、運営形態、ビームライン、およびビーム利用に関する委員会の設置準備を進めています。今回のワークショップでは、これらの委員会のうち、ビーム利用検討委員会の委員から分科会の世話人を選出して、分科会でより有意義な議論を行うための議事案をまとめる予定です。

現在の PF のユーザーに限らず、放射光の利用に関心をもつ全ての皆さんのワークショップへの積極的なご参加をお待ちしております。プログラムや参加申込手続などの詳細については、<http://pf-form.kek.jp/kekls-ws2016/> をご覧ください。

日時: 2016 年 9 月 11 日 (日) 12:30 ~ 12 日 (月) 16:00 (予定)

場所: 高エネルギー加速器研究機構 小林ホール

PF-UA 戦略・将来計画小委員会報告

戦略・将来計画担当幹事 腰原伸也 (東京工業大学)

PF-UA 戦略・将来計画小委員会が下記の日程で開催された。

日時: 2016 年 4 月 25 日 (月) 10:00 - 12:00

場所: 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト会議室

出席者: 腰原伸也 (委員長), 平井光博, 村上洋一, 佐藤衛, 雨宮慶幸, 百生敦, 朝倉清高, 近藤寛 (庶務幹事: オブザーバー)

3月PFシンポジウムでKEK放射光計画が公表され、PF-UA幹事会・運営委員会、PF-UA総会で、KEK放射光の推進に全面的に協力するための検討委員会の立ち上げ、及び、この計画に関係した拡大ユーザーグループミーティングの開催が承認された。

この決定を受けて、PF-UA戦略・将来計画小委員会が開催され、PFシンポジウムで整理された3分類（施設運営レイヤー、測定手法・技術レイヤー、利用目的レイヤー）に対応する3つの「KEK放射光計画推進に関するPF-UA検討委員会」（KEK放射光運営形態検討委員会、KEK放射光ビームライン検討委員会、KEK放射光ビーム利用検討委員会）の立ち上げと、各委員会の構成、ミッションなどが協議された。提案された各委員会の構成、ミッションは下記の通り。この方針に沿って委員構成を検討することとなった。

【運営形態検討委員会】

構成：会長＋戦略小委員会＋白書検討委員＋施設＋ α

ミッション：将来計画検討委員会で検討され最終報告書に記載された運用、利用形態の具体化の検討。先端施設に相応しく、かつユーザーにとって利用の多様性や利便性が高い新たな利用形態、運用体制に関して協議する。運転時間、BT配分、運転資金、人材育成などの問題も協議・検討を行う。

【ビームライン検討委員会】

構成：UG代表orUGから1名の推薦＋UA幹事＋施設＋ α

ミッション：将来計画検討委員会で検討され最終報告書に記載された3つのタイプのステーション、すなわち、KEK放射光の光源性能によって初めて可能となる「先端的研究ステーション」、現在のPFにおける研究を発展させることによって可能となる「高度化研究ステーション」、次世代放射光施設の整備・高度化に必要な「基盤機器開発ステーション」の設計に直接関与する施設スタッフとユーザーが一体となって、共通基盤的な技術を専門的な立場から具体的に検討する。CDR、TDR作成に貢献。

【ビーム利用検討委員会】

構成：UG代表orUGから1名の推薦＋UA幹事＋施設＋ α

ミッション：将来計画検討委員会で検討され最終報告書に記載されたサイエンスケースの詳細検討。材料・触媒科学、生命科学、ソフトマター科学、強相関電子系科学、表面・界面科学、原子・分子科学、極限物性科学、地球惑星・環境科学、X線光学などの各分野について、KEK放射光の光源性能によって初めて可能となるサイエンスを検討し、施設側が行う概算要求等に協力する。合わせて、KEK放射光利用研究の代表例（フラッグシップ的課題例）を選定する。

連絡事項：「東北放射光計画」に関して

PF-UA会長 平井光博（群馬大学）

東北放射光計画に関して、担当者からの説明が行われた。

会場：イオンコンパス東京八重洲会議室 RoomE

日時：5月22日（日）午後1～3時

出席者：（東北大学）高田昌樹、虻川匡司、矢代航
（PF-UA）平井光博、近藤寛

東北放射光計画に関して、エンドステーションのデザインコンペが6月末から7月頃の公募開始を予定しており、コンペの概要と現在の計画状況の説明が行われた。coalitionコンセプトに基づき、特定企業＋特定学術関係者の1:1連携の集合体として運用が行われる予定。日本の放射光ユーザー全体からの参画を希望されているため、コンペ情報の連絡を受け次第、オールジャパンユーザーで構成されているPF-UAにも情報を速やかに公開することを申し合わせた。また、PF-UA拡大ユーザーグループミーティングなどの機会を利用して、東北放射光計画の説明を頂くことを了承頂いた。

PF-UA幹事会・運営委員会メール審議報告

庶務幹事 近藤寛（慶応義塾大学）

PF-UA幹事会・運営委員会のメール審議が行われた。

日時：2016年6月8日（水）

審議事項と協議結果は下記の通り。

審議事項（1）

2016年4月25日PF-UA戦略・将来計画小委員会で協議された「KEK放射光計画推進に関するPF-UA検討委員会」の構成（KEK放射光運営形態検討委員会、KEK放射光ビームライン検討委員会、KEK放射光ビーム利用検討委員会）とそのミッション、各委員会委員に関して、意見聴取を行い、原案通り承認された。

審議事項（2）

拡大ユーザーグループミーティングとして「KEK放射光ワークショップ」を9月11、12日の期間開催することが提案され、承認された。

平成 28 年度 第 1 回 PF-UA 幹事会, 第 2 回戦略・将来計画小委員会 合同委員会議事録

日時：平成 28 年 7 月 17 日 9:30-11:30

場所：エポカルつくば小会議室 405

出席者：[幹事会] 平井光博（会長）、近藤寛（庶務）、田中信忠（会計）、植草秀裕（書記）、清水敏之（行事）、片山真祥（編集）、山本勝宏（広報）、腰原伸也（戦略）、奥部真樹（推薦・選挙）、上久保裕生（共同利用）、
[戦略・将来計画検討小委員会] 腰原伸也（委員長；幹事会）、佐藤衛、百生敦、村上洋一
[オブザーバー] 足立伸一（運営委員）、雨宮健太（運営委員）、小林幸則、船守展正、本田融、藤森淳、兵頭俊夫

・平成 27 年度会計報告（最終）、平成 28 年度予算案が報告され承認された（会計幹事）。

・戦略・将来計画小委員会報告（第 1 回）（戦略・将来計画担当幹事）

3 月に開催された PF シンポジウムでの PF-UA 総会合意により、PF-UA は KEK 放射光計画を支持し、設計段階から全面的に協力する体制を構築し、実質的な貢献を行う。このため 4 月 25 日開催の小委員会では、運営形態検討委員会（運用、利用形態の具体化を検討する）、ビームライン検討委員会（ビームライン、エンドステーション、実験装置の具体化を検討する）、ビーム利用検討委員会（サイエンスケースを検討する）の発足を決定、各委員会の構成、ミッションを協議した。この方針と構成を幹事会・運営委員会のメール審議にて承認した（6 月 8 日）。

・施設報告（村上施設長）

共同利用関係として、今年度のビームタイム、課題採択やユーザー分布、運転計画が紹介された。将来計画関係として、計画の進捗の予定、KEK のプロジェクト実行計画（KEK Project Implementation Plan (KEK-PIP)）の国際評価委員会で KEK 放射光計画が最優先課題の大型プロジェクトとして位置づけられ、KEK ロードマップの改訂が行われること、KEK 放射光計画の推進体制および CDR (Conceptual Design Report) 暫定版について、放射光計画の必要性や CDR 作成スケジュールを含めて紹介した。

・KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の活動方針（平井会長）

以下の各項について報告・協議を行った。

○ KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の活動方針（平井会長）

PF-UA は KEK 放射光計画に全面的に協力する委員会組織を構築し、オールジャパン体制での実質的な貢献を行う。戦略・将来計画検討小委員会報告（第 1 回）を踏まえた説

明が行われた。運営形態検討委員会、ビームライン検討委員会、ビーム利用検討委員会の構成とミッション、委員選定、各専門委員会のスケジュールについて報告があった。

○ KEK 放射光ワークショップのプログラム（平井会長）
2016 年 9 月 11 日午後～12 日夕方に高エネルギー加速器研究機構 小林ホールにおいて、ワークショップを行う。ユーザーとの情報共有と議論を行い、利用ケースの全体像を取りまとめる。ビーム利用検討委員会から分科会の世話人を選出し、各分科会での議論の基礎となる話題の取りまとめを行う方向性とプログラム案が提案された。全体運営は共同利用幹事が担当し、プログラム・分科会企画はビーム利用検討委員会世話人が担当する。以上の提案について協議を行い承認した。

○ KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の活動状況の情報発信の方法（平井会長）

ホームページでリンクを作成する、PF News への掲載や臨時号の発行、随時メール配信を行うなど情報発信について協議を行った。また、KEK 放射光計画に関するアンケートを実施することが重要であり、適切な実施時期、内容を今後戦略・将来計画小委員会で検討することとした。

・その他協議事項（庶務幹事）

将来的に、PF-UA 登録・ユーザー情報使用承認手続きを KEK の「共同利用者支援システム」(KRS) で一本化する方向で継続して検討している。一方、暫定的に PF-UA ホームページを改良して情報利用承認だけを行う方法を検討している。その際には PF-UA の web サイトを外部に設置する方向で検討する。

KRS のユーザー登録が消えると PF-UA 登録も消えてしまう問題点を把握している。このため、PF-UA 会則を改定し、退会届を利用する方向で検討する。また個人情報に関する PF-UA 細則を整備し、ユーザーから事前に承諾をとることを検討する。これらを継続して検討する。

PF 職員が正会員 1 として自動的に登録されることが望ましい。このため、PF-UA 会則第 5 条から、PF 職員に関する文言を削除することを承認した。ただし、施設内委員として参加が可能のため、PF-UA 幹事・運営委員は外部ユーザーで構成する。関連する規定の但し書きを削除する。

運営形態検討委員会準備会議事録

日時：平成 28 年 7 月 17 日 12:30-14:25

場所：エポカルつくば小会議室 405

・KEK 放射光計画の進捗状況（村上施設長）
計画の進捗，ロードマップの改訂，放射光計画に関する KEK Project Implementation Plan (KEK-PIP)，KEK での組織体制，CDR (Conceptual Design Report) 暫定版について，放射光計画の必要性や CDR 作成スケジュールを含めて紹介があった。当委員会は CDR のスケジュールを意識するが，その後も引き続き検討を行う。

・KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の活動方針（平井会長）

3 月に開催された PF シンポジウムでの PF-UA 総会合意を受け，運営形態検討委員会（運用，利用形態の具体化を検討する。オールジャパン体制の構築に働きかける），ビームライン検討委員会（ビームライン，エンドステーション，実験装置の具体化を検討する。CDR，TDR (Technical Design Report) 作成に貢献する），ビーム利用検討委員会（サイエンスケース，サイエンスフラッグシップを検討する。CDR の作成に貢献する）が発足した。各委員会の構成メンバー，ミッションについて詳細な説明があった。

・委員会のミッションの確認（佐藤委員長）

フォトンファクトリー将来計画検討委員会最終報告書にある，次世代放射光施設の利用形態と運営体制について，具体的な検討を行い CDR 等に反映させる。企業・他組織からの参加など，構成メンバーを検討する。

KEK 放射光計画に対する PF-UA の活動経緯，今後の理想的な新放射光の運営体制について，これまでに行った提案について説明があった。

・次世代放射光施設の利用形態と運営体制に関する議論について（足立委員）

次の論点が紹介された。

- ◆ 学術，産業，など多くの視点から，更地からの実際のユーザーによる議論
- ◆ 物質構造科学分野の更なる進展への寄与
- ◆ 必要な機能のブラッシュアップ
- ◆ 大学，大学共同利用機関，大学以外の役割の整理
- ◆ ボトムアップとトップダウンの両方の視点
- ◆ 社会を意識した発信（運営，研究の議論）
- ◆ 大学共同利用の再定義に関する議論

・その他の議論（佐藤委員長）

企業，他組織からの委員の選定についての議論を行い，名前が出た方に委員を依頼する方向で検討することとした。運営体制として，客員研究系，サテライト研究室，オープンラボ的な企業利用などについて議論を行った。

ビーム利用検討委員会準備会議事録

日時：平成 28 年 7 月 17 日 14:40-16:45

場所：エポカルつくば小会議室 405

・山田和芳 KEK 物構研所長から，「世界最高の放射光施設の実現に向けて」というご挨拶を頂いた。

・KEK 放射光計画の進捗状況（村上施設長）

計画の進捗，ロードマップの改訂，放射光計画に関する KEK Project Implementation Plan (KEK-PIP)，KEK での組織体制，CDR (Conceptual Design Report) 暫定版について，放射光計画の必要性や CDR 作成スケジュールを含めて紹介があった。

・委員会のミッションについて（近藤委員長）

フラッグシップ選定，CDR/TDR に掲載するサイエンスケースの編集，展開されるサイエンスによりビームライン検討委員会へ提案する，新しいサイエンスを目指す研究会の開催等のミッションが紹介された。直近には CDR，ワークショップに寄与する。

・委員会メンバーについて（近藤委員長）

現在の委員構成について承認した。企業や他組織からの委員は委員長が追加する。

・世話人について（近藤委員長）

フォトンファクトリー将来計画検討委員会最終報告書にあるサイエンス十分野，および施設から世話人を選定した。各分野のまとめ役となる。

・CDR に掲載するサイエンスケースについて（近藤委員長）

CDR に掲載するサイエンスケースの意義について，また，委員（サイエンス提案と査読）・UG 代表（UG の将来を見た提案）・世話人（テーマの選定・査読・フラッグシップの検討）の役割分担について説明があった。また，サイエンスケースの査読・編集について方法や日程案が説明された。関連する協議を行った。

・KEK 放射光ワークショップについて（近藤委員長）

9 月 11，12 日に小林ホールで開催という日程が紹介された。PF-UA から共同利用幹事が担当し，この委員会の世話人を中心に分科会の取りまとめをお願いしたい。1 日目にサイエンス分科会，2 日目に分科会のフラッグシップ発表と全体会議という日程を考えている。

・今後の予定（近藤委員長）

サイエンスケースの詳細を元に，対外的アピールであるサイエンスフラッグシップの作成，CDR/TDR の作成への寄与，ビームライン委員会への提案，ワークショップ分科会での議論を行う。直近には CDR テーマのタイトルと執筆者を委員より提案してもらう。

KEK 放射光ワークショップ開催報告と 関連するこれまでの PF-UA の活動報告

会長 平井光博
戦略・将来計画担当幹事 腰原伸也
庶務幹事 近藤 寛
行事幹事兼書記担当庶務副幹事 植草秀裕

KEK 放射光ワークショップ

日時：平成 28 年 9 月 11 日（日）～ 12 日（月）

場所：KEK（つくばキャンパス）

お陰様で、約 210 名の参加者を得て無事終了できました。皆様方のご協力に心より感謝いたします。

KEK は、KEK-Project Implementation Plan の決定および KEK ロードマップの改訂（6 月 30 日）を経て、最新性能を持った 3 GeV 蓄積リング型高輝度光源施設「KEK 放射光」の早期実現を図ることを決定しました。KEK 放射光計画は、先進的な新 3 GeV リングとその最新光源性能を利用して、世界をリードする最先端放射光源利用研究さらには観測手法自体も含めた多様な開発研究のために世界に向かって開かれた場を実現すると同時に、全国のユーザーの多種多様な研究の用途、その大量の需要に応えながら人材育成にも十分に貢献できる研究・教育環境の場を提供することを目的としています。公開資料によると日本の主要な放射光施設の利用者の 8 割を大学・学術関係が占めております。PF 利用者 3,400 名の場合、大学関係 76.7%、国研関係 7.2%、産業利用 8.3%、海外 7.4%、その他 1.5% となっており、SPring-8 利用者 4,500 名の課題分類の場合では、大学関係 63.9%、国研関係 14.1%、産業利用 16.6%、海外 5.4% となっています。大学・学術関係の全国の利用者からの要望と需要に十分に答え得る「KEK 放射光を実現する」ことは、加速器先端・基盤研究の推進と人材育成の開かれた場を提供する大学共同利用機関法人 KEK のミッシ



図 1 会場の様子



図 2 挨拶をする平井会長

ョンと合致しています。一方、巨大科学プロジェクトに対しては、専門家以外の多くの方（納税者も含めた）のご理解を得る必要があります。そのため KEK 放射光計画の推進にあたっては、プロジェクトの推進母体である KEK と我々全国の放射光源利用者がオープンな協議と議論を重ねながら計画を立案し、自ら精査、実行するミッションと責任を持っております。

こうした理由から、本ワークショップは、現在の PF のユーザーに限らず放射光の利用に関心をもつ全ての方々に参加を呼びかけることとしました。「KEK 放射光」計画の検討状況についてユーザーとの情報共有を行うとともに、その最先端性能をもって、我が国の科学、さらには世界の科学に貢献するためのサイエンスケースについて、分科会形式での提案、協議を実施すべく、PF と PF-UA の共催で開催される運びとなりました。

順序が前後いたしますが、開催に至るまでの PF-UA の活動の経緯を簡単にまとめさせていただきます。PF-UA では、第 33 回 PF シンポジウム（平成 28 年 3 月 16 日）において公開された KEK の次期計画である「KEK 放射光」の推進に全面的に協力するために、all-Japan での推進体制を構築することを決議し、その決議に従って、第 1 回戦略・将来計画小委員会（4 月 25 日）、幹事会・運営委員会でのメール審議（6 月 8 日）、第 1 回幹事会・第 2 回戦略・将来計画検討小委員会の合同委員会（7 月 17 日午前）、PF-UA KEK 放射光検討委員会準備会（同日午後）を順次開催し、準備会での協議結果を受けて、PF-UA 外の委員の推薦・依頼を行い、KEK 放射光計画の骨格となる CDR（Conceptual Design Report）のサイエンスケースを協議するビーム利用検討委員会が先行する形で活動を開始しました。現在 22 ある PF-UA のユーザーグループをベースに選出された KEK 放射光ビーム利用検討委員会の委員の中から、主にサイエンスの分野の観点から 10 名の世話人を選任、近藤寛委員長（UA 代表）、中尾裕則委員（施設代表）、

世話人の協力により、7月下旬から順次CDRサイエンスケースの執筆を全国の放射光関係者に依頼し、校閲、修正、編集、施設側との協議を経て、KEK放射光CDR（暫定版ver.2）が9月7日に公開可能となりました。なお、この資料は、ワークショップの分科会でのさらなる協議と議論に供されました。

実施されましたワークショップのプログラムは下記の通りです。

【9月11日（日）】

12：30-13：30 はじめに（司会：村上洋一，足立伸一）

機構理事挨拶 岡田安弘，野村昌治

PF-UA 会長挨拶 平井光博

「PFの将来計画について」 村上洋一

13：30-14：30 KEK放射光紹介（司会：足立伸一）

「蓄積リング」 原田健太郎

「挿入光源」 土屋中央

「ビームライン」 雨宮健太

14：30-14：45 — 休憩 —

14：45-15：45 KEK放射光検討委員会報告

（司会：平井光博）

「運営形態検討委員会報告」 佐藤衛

「ビームライン検討委員会報告」 腰原伸也

「ビーム利用検討委員会報告」 近藤寛

15：45-16：45 先端的観測・解析手法（司会：雨宮健太）

「KEK放射光で切り拓くX線分光イメージング」

小野寛太

「スパースモデリングによる放射光データからの潜在的構造情報の抽出」 岡田真人

16：45-17：00 — 休憩 & 写真撮影 —

17：00-18：30 分科会 1

18：30-20：30懇親会（研究本館ラウンジにて）

【9月12日（月）】

9：00-10：00 分科会 2

10：00-10：15 — 休憩 —

10：15-10：25 物構研所長挨拶 山田和芳

10：25-10：35 加速器施設長挨拶 山口誠哉

（司会：村上洋一）

10：35-11：45 分科会代表講演 1（司会：清水伸隆）

「生命科学」 清水敏之

「ソフトマター科学」 櫻井伸一

「極限物性&地球惑星・環境科学」 遊佐斉，高橋嘉夫

11：45-12：30 — 昼休み —

12：30-13：00 東北放射光施設計画紹介 高田昌樹

（司会：平井光博）

13：00-14：30 分科会代表講演 2（司会：中尾裕則）

「材料・触媒科学」 田渕雅夫

「原子・分子科学」 小田切丈

「X線光学」 山口博隆

「強相関電子系&表面・界面科学」

齋藤智彦，小澤健一

14：30-14：45 — 休憩 —

14：45-15：45 総合討論（司会：船守展正）

パネラー：腰原伸也，近藤寛，佐藤衛，平井光博

15：45-16：00 おわりに 平井光博，村上洋一

ワークショップ初日の午前中には、PF-UA 幹事会・運営委員会、KEK放射光ビームライン検討委員会（腰原委員長）、KEK放射光運営形態委員会（佐藤委員長）が連続で開催され、昼食の後、午後からのワークショップに移行しました。急な事情により欠席された機構長に代わり岡田理事と野村理事から挨拶があり、機構としてのKEK放射光計画に対する現在までの取り組みの説明と「機構として早期実現を図る」との強い意志表明がありました。また、施設担当者からKEK放射光の持つポテンシャルも含めた具体的な紹介がありました。休憩を挟んで、PF-UA KEK放射光検討委員会の各委員長から、それぞれの委員会のミッションの説明と確認、委員構成、今後の活動予定などの説明が行われました。また、それに引き続き、先端的観測・解析手法に関する講演が2件行われました。講演者の小野寛太氏からは、ナノスケールレベルでの局所的な電子状態やスピン状態を直接観察可能な軟X線高分解能磁気イメージングとKEK放射光での可能性に関して、岡田真人氏からは、KEK放射光で得られると想定される大量の高次元データから背後に潜むルールや法則を抽出する普遍的な枠組みとして注目されているスパースモデリングに



図3 集合写真

関して、それぞれ大変興味深く示唆に富んだ内容の講演が行われました。写真撮影の後、KEK 放射光ビーム利用検討委員会の世話人が中心となってサイエンスの分野毎に企画した分科会に分かれて、KEK 放射光で目指すサイエンスケースの検討が行われました。分科会によっては懇親会の時間に食い込むまでの熱い議論が行われました。

ワークショップ二日目は、朝から前日の議論のまとめが各分科会で行われ、午前後半のセッションでは、山田物構研所長から挨拶があり、「社会に必要とされ、人を惹きつけてやまない量子ビーム施設」の重要性、次期放射光光源に求められる要素として「施設の先端性、安定性、拡張性、信頼性、生産性、経済性、地域性、国際性などのトータルパフォーマンスの最大化、コンセプトの明確化、常なる見直し」が肝要であるとの指摘がありました。引き続き、山口加速器施設長からは、「KEK としては常に世界最高性能の加速器を目指しており、施設 210 名の総力を挙げて放射光施設建設に取り組む」との心強い挨拶がありました。その後、午前後半のセッションから午後前半のセッションにかけて、各分科会の代表者から KEK 放射光で可能となるサイエンスケースの発表があり、また、途中、高田氏から産業利用をミッションとする東北放射光施設計画の紹介がありました。午後後半のセッションでは、会長と KEK 放射光検討委員会の委員長をパネラーとして総合討論が行われ、今後の進め方についての議論が行われました。

本ワークショップについては、準備期間、参加登録期間ともに大変短く、ワークショップのプログラムも極めてタイトであったにも関わらず、多くの方々にご参加頂き、「KEK 放射光」推進への all-Japan の熱意を、本報告執筆者のみならず参加者全員が実感し、共有できたと思います。

PF-UA として KEK 放射光計画に全面的に協力し、推進することを決議してから極めて短期間の内に、all-Japan での KEK 放射光検討委員会を設置、CDR 暫定版を作成して今回のワークショップ開催に至りましたことは、関係者の KEK 放射光に対すると大きな期待を如実に示しており、今後とも、全国のユーザーが結束して、施設・機構と協力しながら KEK 放射光の実現に向けて着実な歩みを進めていくことが極めて重要であることを再確認しました。

平成 28 年度 第 2 回 PF-UA 幹事会、 第 1 回 PF-UA 運営委員会合同委員会 議事録

日時：平成 28 年 9 月 11 日 9:45-10:25

場所：KEK つくばキャンパス 4 号館 2 階輪講室 1,2

出席者：[幹事会] 平井光博（会長）、近藤寛（庶務）、田中信忠（会計）、植草秀裕（行事・書記）、山本勝宏（編集・広報）、腰原伸也（戦略・将来）、朝倉清高（戦略・将来計画）、奥部真樹（推薦・選挙管理）、米山明男（共同利用）、奥田浩司（教育） [運営委員会] 足立伸一、雨宮健太、河田洋、木村千里、齋藤智彦、櫻井伸一、佐々木聡、佐藤衛、志村

考功、千田俊哉、中山敦子、沼子千弥、増田卓也、村上洋一、百生敦、横谷明德、三木邦夫（藤橋 雅宏 代理出席）

・PF-UA の現在までの活動について（平井会長）

KEK 放射光計画に関して、4-9 月までの PF-UA の具体的な対応として、第 1 回戦略・将来計画検討小委員会、幹事会・運営委員会のメール審議、第 1 回幹事会、第 2 回戦略・将来計画検討小委員会、KEK 放射光検討委員会準備会の活動について紹介した。

・会計報告（田中会計幹事）

平成 27 年度会計報告（最終）、平成 28 年度予算案を報告し、運営委員会で承認された。平成 27 年度は黒字を次年度に繰り越す。平成 28 年度はワークショップ・研究会による支出増加を見込んだ予算とした。広告や賛助会員の増強に努力する。

・戦略・将来計画小委員会の活動報告（平井会長）

KEK 放射光計画を推進するために「PF-UA KEK 放射光検討委員会」を置く。これは「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」から構成され、それぞれの構成とミッションについて報告した。対応して、KEK PF 側には「KEK 放射光検討ワーキンググループ」が置かれ、長期計画、光源、ビーム利用、ビームライン、運営形態の各検討 WG から構成される。「PF-UA KEK 放射光検討委員会」は、PF-UA ユーザー・スタッフだけでなく、他放射光施設や他量子ビーム施設の関係者にもご協力をいただいて構成・設置された全日本体制の検討組織である。

・施設報告（村上施設長）

共同利用関係として、予算とビームタイム、課題数や論文数、ユーザー分布、産業利用活性化に関する試行利用の設定、今年度運転計画を紹介した。将来計画として、計画の現状、CDR（Conceptual Design Report）完成スケジュール、「KEK 放射光検討ワーキンググループ」各検討 WG 組織、インターネットを使った対外広報体制について紹介した。

・PF-UA の今後の活動について（平井会長）

「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」の構成と委員リストを報告した。

KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の活動方針を報告した。PF-UA KEK 放射光検討委員会と施設側の KEK 放射光検討ワーキンググループとの密接な連携のもとで、KEK 放射光計画の今後の予定に合わせて、PF-UA の各検討委員会の活動予定を決定する。計画の進捗状況に関して、KEK 放射光ホームページや PF-UA ホームページなどを利用して全 PF ユーザーおよび関連各所へ速やかに情報発信を行うと同時に、各ユーザー、ユーザーグループを通じて、研究会、学会等での広報を行う。

「運営形態検討委員会」、「ビームライン検討委員会」、「ビーム利用検討委員会」（任期 2016 年 7 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）の活動スケジュールについて概要を報告した。

- ・ 運営形態検討委員会は PF 将来計画検討委員会最終報告を参考に、新光源の運用形態のあり方と実現に関して具体的な検討を開始する。KEK 放射光計画の all-Japan 体制での推進のために、各所への働きかけを行う。
 - ・ ビーム利用検討委員会は PF-UA を含む all-Japan ユーザーからの提案により、KEK 放射光計画の CDR のサイエンスケースを作成する（9 月 7 日に暫定版を公開）。「KEK 放射光ワークショップ」における議論により CDR を深化させ（10 月上旬）、その後も更新を行う。
 - ・ ビームライン検討委員会は次年度の TDR（Technical Design Report）の完成に向け、今年度後半に all-Japan 体制で委員会を立ち上げ、CDR を完成させる。先端的研究・高度化研究・基盤機器開発の各ステーションの実現に向け、ビームラインの具体化に向けた検討を開始する。来年 3 月に開催予定の MAC（Machine Advisory Committee）を経て TDR の作成に向かう。
- なお今後のスケジュールに関しては、各委員会で協議する。

平成 28 年度第 1 回ビームライン検討委員会議事録

日時：平成 28 年 9 月 11 日 10:25-11:05

場所：KEK つくばキャンパス 4 号館 2 階輪講室 1,2

腰原伸也委員長の司会により下記の項目について説明、議論を行った。

1. 委員会名簿の紹介があった。
PF-UA のユーザーグループ、施設、外部施設、産業界などから委員をお願いした。
2. 本委員会のミッションの説明があった。
CDR が出てから、先端的研究・高度化研究・基盤機器開発の各ステーションの実現に向けて、具体的な検討を行う。CDR 暫定版 P70 を参照。
3. 施設側から CDR 暫定版に基づきビームラインの技術の説明があり、意見交換を行った。（雨宮健太 委員）
4. CDR の完成に向けての今後の活動スケジュールについて説明があった。

平成 28 年度第 1 回運営形態検討委員会議事録

日時：平成 28 年 9 月 11 日 11:05-11:45

場所：KEK つくばキャンパス 4 号館 2 階輪講室 1,2

佐藤衛 委員長の司会により下記の項目について説明、議論を行った。

1. 委員会名簿の紹介と委員会のミッションについて説明があった。
PF 将来計画検討委員会最終報告に記載された利用形態と運用体制を基にし、all-Japan 体制での推進のために各所へ働きかけをする。このため、他の施設から委員をお願いしている。産業利用に関する委員をお願いしている。
2. これまでの経緯について紹介があった。
これまでの次世代放射光・将来計画に関する様々な提言や白書について説明があり、それらがもとになって KEK 放射光計画の CDR 暫定版が作成されている。
3. CDR の完成と最終版に向けての予定について説明があった。
CDR は学会などを含め広い範囲からのレビューに耐えうるものでなければならない。「放射光」誌 2016 年 9 月号の特別寄稿にある、産学リサーチコンプレックスの形成、この中心となる立地、コミュニティの一致団結、を満たすように進めるべきである。
4. 質疑応答を行った。

2016 年度量子ビームサイエンスフェスタ（第 8 回 MLF シンポジウム / 第 34 回 PF シンポジウム）開催のご案内

主催：KEK 物質構造科学研究所、J-PARC センター、総合科学研究機構（CROSS）、PF-UA、J-PARC/MLF 利用者懇談会

会期：2017 年 3 月 14 日（火）、15 日（水）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）

皆様の多数のご参加をお待ちしております。なお、前日の 3 月 13 日（月）にはユーザーグループミーティングも開催される予定です。

<お知らせ>

PF-UA ユーザーの集いが、第 30 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム（JSR2017；2017 年 1 月 7 日（土）～9 日（月・祝）神戸芸術センター）期間中に行われます。日程は 1 月 8 日午後を予定しています。

平成 28 年度 第 3 回 PF-UA 幹事会議事録

日時：平成 29 年 1 月 8 日 10:40 ~ 12:05

場所：神戸芸術センター F 会場（会議室 504）

出席者：平井光博（会長）、近藤寛（庶務）、清水敏之（行事）、植草秀裕（行事・書記）、朝倉清高（戦略・将来計画）、米山明男（共同利用）、片山真祥（編集）、木村千里、佐藤衛、村上洋一、船守展正

- ・会長挨拶（平井光博会長）
- ・施設報告（村上洋一施設長）
共同利用関係、運転関係、共同利用関係、将来計画関係の報告があった。
- ・KEK 放射光検討委員会について（平井光博会長）
- ・運営形態検討委員会報告（佐藤衛 委員長）
- ・ビームライン検討委員会報告（近藤寛 庶務幹事）
- ・ビーム利用検討委員会報告（近藤寛 委員長）
- ・量子ビームサイエンスフェスタの予定について（清水敏之 行事幹事）
2017 年 3 月 14-15 日つくばエポカルで開催、2017 年度は 3 月 2-4 日に茨城県立県民文化センターで行う。
- ・次期会長推薦について（平井会長）
H30-H32 年度会長候補として、運営委員会から清水敏之先生が会長候補として推薦された。会長選挙に関する会則・細則の改定案が提案され承認された。

平成 28 年度 PF-UA の集い議事録

日時：平成 29 年 1 月 8 日 12:20 ~ 13:30

場所：神戸芸術センター D 会場（プロコフィエフホール）

- ・会長挨拶（平井光博会長）
- ・施設報告（村上洋一 施設長）

共同利用関係として、予算、運転時間、G 型課題申請数の推移が紹介された。運転関係として、今年度第 3 期予定、次年度の運転計画が紹介された。次年度は SuperKEKB 工事関連で 5 ヶ月の連続した休止期間があり、残りの 7 ヶ月で約 3000 時間運転を目指す。産業を含めた施設利用（有償利用）制度が新設され、試行、利用支援、代行測定・解析の 3 種類がある。共同利用関係として、BL-4A ユーザーグループ運営の継続、BL-14 の修理による休止（2017 年 11 月まで）が報告された。

将来計画として、KEK 放射光計画の進捗状況の説明があった。CDR（Conceptual Design Report）version 1 についてご意見・提案を募集している。

第 2 回 KEK 放射光ワークショップ（3 月 13 日午後）は量子ビームサイエンスフェスタのサテライトミーティン

グとして行われる。KEK-LS Machine Advisory Committee（MAC）は 4 月 5、6 日に KEK で開催され、技術評価を行うことが紹介された。

議論として、有償利用に使われる時間の割合が全体の 20% を超えないこと、予算額の内訳の提示方法改善の提案がなされた。

- ・KEK 放射光検討委員会について（平井光博会長）
KEK 放射光検討委員会の構成とミッション、今年度の PF-UA の取り組み、推進体制の紹介があった。
- ・運営形態検討委員会報告（佐藤衛 委員長）
CDR ができるまでの取り組みの経緯と基本になる考え方、議論の方向性を紹介した。
- ・ビームライン検討委員会（近藤寛 庶務幹事）
現在の状況を報告した。CDR のドラフトについてコメントし回答を得た。また、CDR version 1 に反映させた。
- ・ビーム利用検討委員会（近藤寛 委員長）
ミッションの紹介に続き、今後のスケジュールを報告した。今後、CDR version 2 に向けて作業を行う。1 月末を締め切りにサイエンスケースの一般募集を行っている。第 2 回 KEK 放射光ワークショップについて紹介があった。
- ・量子ビームサイエンスフェスタの予定について（清水敏之 行事幹事）
2017 年 3 月 14-15 日につくばエポカルで開催する。3 月 13 日に第 2 回 KEK 放射光ワークショップと UG ミーティングを行う。2017 年度は 3 月 2-4 日に茨城県立県民文化センター（水戸市）で行う。
- ・次期会長推薦について（平井光博会長）

H30-H32 年度会長候補として、運営委員会から清水敏之先生が会長候補として推薦された。候補者が 1 名であるので、信任投票を行う。会長選挙に関する会則・細則の改定案が紹介された。

- ・その他

KEK 放射光の実現に向けたスケジュールについて質問があり、2017 年度には実証実験 R&D が予定されている。大型施設の実現には、様々な要素があるのでチャンスにすぐ対応できるようにしっかり準備を行う必要があると回答があった。また、大学共同利用のあり方についても議論があることが紹介された。ERL の総括を生かしてスケジュール問題が生じないようにすべきという意見があった。

- ・その他

KEK 放射光の実現に向けたスケジュールについて質問があり、2017 年度には実証実験 R&D が予定されている。大型施設の実現には、様々な要素があるのでチャンスにすぐ対応できるようにしっかり準備を行う必要があると回答があった。また、大学共同利用のあり方についても議論があることが紹介された。ERL の総括を生かしてスケジュール問題が生じないようにすべきという意見があった。

学術会議のマスタープランに入れるように対応する必要があるのではないかという質問に対し、マスタープランは改訂があるので、伝統のある PF を拠点とした発展が反映されることが望ましいという意見があった。先行している SLiT-J にアウトステーションを提案し、腕を磨く必要があるのではないかという意見があった。また、KEK 放射光の R&D 項目は今後のすべての放射光施設で必要になるもので、これを all Japan でやってゆくことを提案していきたいとの回答があった。